

国際レース

1970(昭和45)年度

(財)日本船舶振興会の補助事業

東西ドイツ

5月17日ハイブロン国際レース

5月24日ハノーバー国際レース

6月14日B級世界選手権大会(ビシー)

6月21日ドイツ国際レース(トラペントバッハ)

メンバー

団 長 原田綱嘉(協会専務)

監 督 中北 清(連合会)

渉 外 金子光夫(協会) 野上助(連合会)

選手兼整備 野木亮助(ヤマト)、小林勝雄(ヤマト)、田村有生(富士)岩井富男(富士)、
吉田弘明(モーターボート選手)



状 況

ハイブロン戦は、総合で野木11位(ヤマトMT- 5型・ケーニツヒボート)、岩井12位(フジRB- 1型・ケーニツヒボート)ハノーバー戦では野木9位(ヤマトMT- 5・ケーニツヒボート)、田村10位(フジRB- 1型・ヤマトボート)、小林(ヤマトMT- T型・ヤマトボート)ビシー戦は田村13位、トラペントラバッハ戦は岩井7位、野木8位、田村9位、小林12位であった。

1971(昭和46)年度

(財)日本船舶振興会の補助事業

6月 6日 ドイツグランプリ (西独 エッセン・ブランデン湖)

6月13日 ヨーロッパグランプリ (西独 ベルリン)

6月20日 プレジデントカップ (西独 トラペントラバッハ・テーゲル湖)

6月27日 チェコ国際レース (チェコ ピセック)

メンバー

団 長 青木芳香(協会理事・連合会役員)

渉 外 吉沢宏和(協会)

整備 関田宏(ヤマト)、梅原義則(富士)

選手 浅見敏夫、日吉昭博(モーターボート選手)

状況

今年はモーターを改良した結果、ドイツグランプリでは1位を占め、また他のヨーロッパグランプリ、インターナショナル(チェコ)等においても成績は良好で国産船外機の性能の優秀性が実証された。

1976(昭和51)年度

(財)日本モーターボート協会自主事業

昭和51年6月26~27日 西ドイツ ブローテンバッハで開催されたOB級世界選手権大会

メンバー

代表 笹川堯(協会理事)

選手 中村章、中村賢次郎

整備 津田豊彰、石原利治

渉外 永来紀洋(協会)

使用器材

モーター ワールドRB-5

ボート 現地調達

状況

10ヶ国、23隻が参加し優勝は西ドイツのK・ミシュケ、日本は中村賢次郎5位、中村章14位、敗因はボートの性能不良と、前回の国際レースから5年の技術的ブランクがあったため。



1977(昭和52)年度

(財)日本船舶振興会の補助事業

昭和52年8月7日 オーストリア アシヤハで開催された1977年OB級世界選手権大会

メンバー

団長 笹川堯(協会理事)

渉外 金子光夫(協会)

選手 杉原豊、中村賢次郎

整備 関田宏(ワールド)

使用器材

モーター ヤマトRB5

ボート 杉原 ワールドXC-1、中村 XB-2

状 況

ヤマトモーターの性能がケーンヒを上回り杉原選手は第1、2ヒート1位、第3ヒート3位、第4ヒート1位で完全優勝、中村選手は第1ヒートプロペラ折損不完走、第2ヒート2位、第3ヒート4位、第4ヒート6位であった。総合で杉原優勝、中村4位の好成績であった。

国際水準を超えた国産モーターの優秀性を遺憾なく発揮した国際レースとなった。

杉原選手がOB級世界選手権者となった。

(財)日本船舶振興会の補助事業

昭和52年8月18、20日アメリカ・ウエストバージニア州ヒントンで開催された1977年OB級全米選手権大会

メンバー

団 長 笹川 堯(協会理事)

選 手 中村賢次郎、中村正昭

整 備 関田 宏

渉 外 金子光夫

オブザーバー 津田豊彰、トーマス伊芸



使用器材

モーター ヤマトRB- 5

ボート ピッケルホーク型3P

状 況

アメリカ大会に初めて参加し、カナダに次いで中村正昭選手が2位となった。今回のヨーロッパ、アメリカ戦を通じて選手それぞれに1名のメカニックが必要との反省意見。

1978(昭和53)年度

(財)日本船舶振興会の補助事業

昭和53年7月29、30日米国オハイオ州デイトンで開催されたOB、OC級レーシングアウトボードモーター世界選手権大会

メンバー

団 長 笹川 堯 (協会理事)

渉 外 藤井日出見(協会) 渡辺純一(協会)

選 手 橋本一均(東京都連盟) 中村正昭(東京都連盟) 中村賢次郎(東京都連盟)

状 況

29日のOB級は、水面状況が悪く第1ヒートは午後6時となり残り2ヒートは翌日に行われ橋本が第5位、中村正昭は8位、中村賢次郎6位。OCクラスは、30日11時15分スタート、橋本選手は転覆事故で負傷、中村正昭はプロペラ破損で15位、中村賢次郎は4位の成績であった。

1982(昭和57)年度

(財)日本船舶振興会の委託事業

昭和57年8月1~17日・米国オハイオ州デイトンで開催のOA、OB級世界選手権大会

メンバー

- 団 長 笹川 堯 (協会理事)
渉 外 金子光夫 (協会)
選 手 横山やすし (大阪府連盟)
杉原 豊 (東京都連盟)
横山正法 (愛知県協会)
整 備 河田慎太郎(ヤマト) 岸本秀雄 (ヤマト)

使用器材

- モーター YAMATO RA- 1 (OA級)、
YAMATORB- 5(OB級)
ボート ピッケルホーク型3Pハイドロプレーン

状 況

OB級では25隻中2位に入ったが、4年振りの海外戦のため艇体の形状等の変化も大きく諸外国の使用器材の性能向上が著しく、苦戦を強いられた。



1983(昭和58)年度

(財)日本造船振興財団の委託事業

昭和58年8月14日・米国ルイジアナ州アレキサンドリアで開催のプロクラス全米選手権大会

メンバー

- 団 長 島田智一 (協会専務)
選 手 横山やすし (大阪府連盟)
杉原豊(東京都連盟)
整 備 石原利治(ヤマト) 新井彰一(ヤマト)
渉 外 金子光夫(協会)

使用器材

- モーター YAMATO RA- 1
ボート YAMATO7901型 3Pハイドロ

状 況

大会エントリーは24隻で、ヤマトRA型8基、ケーニツヒ2気筒12基、ケーニツヒ4気筒4基が使用されていた。レース結果は、横山選手が5位杉原選手が7位。優勝艇は西独製。

1984(昭和59)年度

(財)日本造船振興財団の委託事業

昭和59年8月25、26日・イタリアのオーロンゾで開催1984年度OA級世界選手権大会
メンバー

代表 笹川堯（協会副会長）

団長 島田智一（協会専務）

渉外 金子光夫（協会）

選手 橋本一均（東京都連盟） 杉原豊（東京都連盟） 大村正法（愛知県協会）

整備 石原利治（ヤマト） 河田慎太郎（ヤマト） 野口真次郎（協会）

使用器材

ボート ヤマトA8401型 モーター ヤマトRA-1型

状況

世界7ヶ国（イタリア、西独、スウェーデン、日本、中国、ポーランド、フィンランド）から25隻が参加、日本は橋本選手351点6位、大村選手240点8位、杉原選手237点9位の各成績。

優勝は、西独製モーター、ケーニツヒを使用したイタリアのランディーニ選手1200点、日本は直線のトップスピードは優れているが、旋回後の加速性能が劣るので研究を要す。



1985(昭和60)年度

(財)日本造船振興財団の委託事業

昭和60年9月7、8日・西独ラーフェンのOA級世界選手権大会、9月14、15日・西独ベルリン ハベル湖のドイツ選手権大会

メンバー

団長 島田智一（協会専務）

選手 橋本一均（東京都連盟） 大村正法（愛知県協会） 下里博文（横浜レーシング）

整備 石原利治（ヤマト）

後藤仁（ヤマト）

岡村誠（協会）

渉外 金子光夫（協会）

使用器材

ボート ヤマト8502型、8503型および8504型

モーター ヤマトRA- 1型(排気量243cc、馬力65ps)

状況

ドイツ選手権では2点マーク1周1,500m5周3ヒートで下里が925点で優勝。世界選手権では2点マーク1周1,600m8周4ヒートで国別成績では日本は657点で3位、個人では1200点でイタリアDARAI・MAURIZが優勝、日本は橋本が159点で10位。技術的には気化器の改良、排気の効率アップで加速性能は改善されたが、さらに絶対速度の向上が望まれる。

1986(昭和61)年度

(財)日本船舶振興会の委託事業

昭和61年9月5日・中国武漢の中国選手権(OA級)6日・日中親善モーターボートレース(OS級400)
メンバー

団長 島田智一(協会専務)

選手 花島 功(カマタレーシング)

下里博文(横浜レーシング)

榊原 醇(碧南レーシング)

石川忠明(芦ノ湖レーシング)

内藤正信(愛知県連盟)

斉藤仁一(ボースン)

飯倉健史(芦ノ湖レーシング)

整備 関田宏(ヤマト) 羽田孝彦(ヤマト) 松田悌助(協会)

渉外 野口真次郎(協会) 木村行孝(協会)



使用器材

ボート OA級 ヤマトA8504型及び8401型(3P hidro) OS級 SC8407型(3P hidro)

モーター OA級 ヤマトRA- 1型(85A) (排気量243cc、出力64ps/12400rpm)

OS級 ヤマト102型 (排気量397cc、出力33ps/6600rpm)

状況

OA級は榊原1100点1位、下里850点2位、花島700点3位で3選手いずれも上位を独占、ボート、モーター及び操縦技術の優秀性が認められた。OS級は石川187点12位、斉藤123点13位、内藤106点14位、飯倉17点17位と振わず敗因は直線の長いコースのため競艇で使用した中古の3P hidroでは不利であった。

1987(昭和62)年度

(財)日本船舶振興会の委託事業

昭和62年8月29、30日・西独 ベルリン国際レース(OA級)、9月6日・チェコスロバキアのジエドグニーチェ国際レース(OA級)

メンバー

団 長 笹川堯 (協会副会長)

監 督 水越良雄(協会常務)

選 手 橋本一均(ヤマトクラブ) 石川忠明(芦ノ湖レーシング) 杉原豊(シブヤスピードショップ)

整 備 石原利治(ヤマト発動機) 樽見次雄(ヤマト発動機) 松田悌助(協会)

渉 外 金子光夫(協会)

状 況

西独ベルリン大会では参加10隻中、優勝橋本選手、3位石川選手、7位杉原選手。チェコ・ジエドグニーチェでは参加17隻中2位橋本選手、5位杉原選手、7位石川選手。しかしチェコ大会では東独製ジンバルモーター搭載の東独艇が優勝した。



1990(平成2)年度

OSY400級世界選手権(第1回英国大会)

(財)日本船舶振興会の委託事業

平成2年8月4、5日・スウェーデン ファルーン

メンバー

監 督 武田敏章 (財団常務)

選 手 飯倉健史 (芦ノ湖レーシング) 田中良宏 (芦ノ湖レーシング)

品川洋造 (横浜レーシング) 丸山清隆 (芦ノ湖レーシング)

整 備 玉利為宇 (財団) 岡村誠 (財団)

渉 外 野口真次郎 (財団)

状 況

総数22隻が出場したが、悪天候によるコース変更、スタート方法変更等の悪条件が重なり日本の3連覇はならなかった。

1991(平成3)年度

(財)日本船舶振興会の委託事業

平成3年7月6、7日・フィンランド イーサラム

メンバー

監督 武田敏幸 (財団常務)

選手 野村和広 (ヤマト クラブ)

田中良宏 (芦ノ湖レーシング)

渉外 野口真次郎 (財団)

整備 後藤仁(ヤマト発動機) 松田悌助(財団) 岡村誠(財団) 大河原勇人(財団)

報道 高鍬真之 フリーライター

状況

日本は野村、田中の2名を代表選手として派遣、大会は16選手(6ヶ国)で競われ野村選手は総合1,100点で優勝、田中選手は700点で3位と上位を占める成果をあげた。日本は操縦、整備については優れていたが艇体、プロペラ等については欧米の技術が上回った。今後艇体とプロペラの調査研究が必要と思われる。

1992(平成4)年度

OSY400級世界選手権

平成4年8月8、9日・スウェーデン ファルーン

メンバー

監督 武田敏幸 (財団常務)

選手 野村和広 (ヤマトクラブ)

渡辺邦夫 (横浜レーシング)

渉外 木村行孝 (財団)

整備 川畑堅彦 (ヤマト) 橋本不二夫(ボースン)

岡村 誠 (財団) 吉村高寛 (財団)

報道 坂田圭介

状況

7か国・20艇が出場したこの大会では、前年度チャンピオンの野村選手が見事な逆転劇を演じ総合1200点で大会2連覇を達成。初参加の渡辺選手も825点で3位に入る健闘を見せた。



1993(平成5)年度

パワーボート

第6回 OSY400 クラス世界選手権

8月28、29日イギリス(ノッティンガム)で開催された第6回 OSY400 クラスの世界選手権に、日本チーム8名(うち選手2名)を派遣した。

団長 水越 良雄
渉外 金子 光夫
選手 丸山 清隆 村上 安弘
整備 渋谷 正義 榊原 敏廣 内山 浩三 岡村 一臣

パワーボートを通じた日本と中国との交流

中国モーターボート選手権

中国安徽省黄山で10月16日に開催された中国モーターボート選手権に日本チーム8名(うち選手4名)を派遣し、ボート・モーターの整備技術の指導とあわせて国際交流をはかった。

団長 武田 敏章
渉外 岡村 誠
選手 橋本 一均 石川 忠明 田中 良宏 野村 和広
整備 樽見 次雄 梅田 秀幸

第1回アジアオープンパワーボートレース

国内

10月2、3日の両日、茨城県潮来町常陸利根川において中国チーム8名(うち選手4名)を招き、第1回アジアオープンパワーボートレースを開催し、操船技術の向上とあわせて日中親善をはかった。

ジェットスポーツ

アメリカアリゾナ州レイクハバスで行われた世界選手権に、国内で優秀な成績をおさめた23名の選手を推薦・派遣した。

1994(平成6)年度

パワーボート

第7回 OSY400 クラスの世界選手権

8月6・7日ハンガリー(セゲド)で開催された、9ヶ国23艇が参加した第7回 OSY400 クラスの世界選手権に、日本チーム8名(うち選手2名)を派遣した。

団長 武田 敏章
渉外 岡村 誠
選手 平尾 孝雄 深須 義之
整備 溝江 忠義 藤沼 孝寿
岡村 一臣 小田切 明



ジェットスポーツ

アメリカアリゾナ州レイクハバスで行われた世界選手権に、国内で優秀な成績をおさめた24名の選手を推薦・派遣した。

1995(平成7)年度

パワーボート

第8回 OSY クラス世界選手権

5月26日から29日まで、イギリス(ベッドフォード)において開催された、8ヶ国19艇が参加した第8回 OSY クラス世界選手権に、日本チーム5名(うち選手1名)を派遣した。成績は16位と振るわなかった。

団長 武田 敏章
渉外 吉村 高寛 向田 学
選手 深須 義之
整備 越塚 孝也

ジェットスポーツ

アメリカアリゾナ州レイクハバスで行われた世界選手権に、国内で優秀な成績をおさめた23名の選手を推薦・派遣した。

1996(平成8)年度

パワーボート

O:350 クラス世界選手権

9月28・29の両日、イタリア(ミラノ)において開催されたO:350級世界選手権大会に、新開発した国産レーシング艇及びモーターで、選手1名を含む6名の選手団を派遣し、総合4位に入賞した。

大会には、12カ国22艇が参加した。

<日本選手団>

団長 武田 敏章

渉外 野口真次郎

選手 野村 和広

整備 岸本 秀雄 岡村 一臣 梅田 秀幸

パワーボートを通じた日本と中国との交流

10月20日、中国(上海)において、開催された国際大会に選手2名を含む7名の選手団を派遣した。なお、大会には4カ国11艇が参加した。

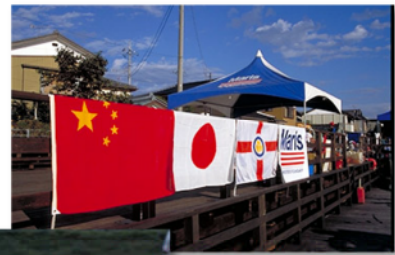
団長 武田 敏章

渉外 岡村 誠

選手 橋本 一均 山村 寿正

整備 白井 敦寛 荒井 高 小田切 明

オブザーバー樽見 次雄



水上スキー

アジア・オセアニア地区選手権大会

8月13日から18日まで、韓国ソウル(漢江河レガッタコース)において、開催されたアジア・オセアニア地区の選手権大会に、6名の選手が参加し、アジア地区で3位の成績をおさめた。

ジェットスポーツ

10月6日から13日まで、アメリカアリゾナ州レイクハバースにおいて、開催されたIJSBA世界選手権に、日本から25名の選手が参加し、2名が上位に入賞した。

1997(平成9)年度

パワーボート

O:350 級世界選手権

10月16日から19日まで、フロリダ(アメリカ)において開催されたO:350級世界選手権に、国産レース艇及びエンジンで、選手1名を含む7名の選手団を派遣し、総合2位に入賞した。

大会には、8カ国から26艇が参加した。

<日本選手団>

団長 武田 敏章

監督 岡村 一臣

渉外 吉村 高寛

補助員 向田 学

選手 石川 忠明

整備 毛利 祐司 佐藤 信雄



パワーボートを通じた日本と中国との交流

国内

9月27・28の両日、茨城県牛堀町において、ハイドロシリーズ2クラスに29名(29隻)がエントリーし、また、選手3名を含む6名の中国選手団を招致し、「日中親善レース」として実施した。

水上スキー

第11回アジア選手権大会

8月26日から31日まで、チャオチン(中国)において開催された第11回アジア選手権大会に、選手5名を含む選手団8名が参加した。大会には8カ国から選手21名が参加した。

IWSF水上スキー世界選手権大会

9月15日から22日まで、メデリン(コロンビア)において開催された、水上スキー世界選手権大会に、選手2名を含む選手団5名が参加した。大会には33カ国から選手135名が参加した。

ジェットスポーツ

IJSBA世界選手権

10月5日から12日まで、アメリカアリゾナ州レイクハバス市において開催された、IJSBA世界選手権に日本から23名の選手が参加し、3名が上位入賞した。

大会には29カ国から選手448名が参加した。

1998 (平成10) 年度

パワーボート

0:350 クラス全米選手権大会

7月26日から8月6日まで、イリノイ州デピュー湖(アメリカ)において開催された0:350クラス全米選手権に、選手1名を含む8名の選手団を派遣した。

この大会にはアメリカ各地から17名の代表選手が参加した。なお、成績は、9位であった。

団長 小島 文雄
渉外 金子 光夫
選手 斎藤 仁一
整備 岸本 秀雄
黒沢 俊之
中村 武
調査員 鈴木 輝雄
小田切 明



水上スキー

第2回日韓対抗親善試合

8月29日、30日の両日、韓国ソウルにおいて開催された、「第2回日韓対抗親善試合」に、選手5名を含む日本選手団8名が参加した。女子ジャンプ競技で日本記録(33.1m)が樹立された。

アジア・オセアニア地区選手権大会及び

アジア選手権大会

平成10年3月10日から14日まで、メルボルン(オーストラリア)において開催された、アジア・オセアニア地区選手権大会及びアジア選手権大会に、選手4名を含む選手団10名が参加した。

アジア・オセアニア地区においては6ヵ国から選手28名、アジア地区においては4ヵ国から選手16名が参加し、アジア地区で2位の成績を収めた。

ジェットスポーツ

'98IJSBA世界選手権大会

10月5日から12日まで、アメリカアリゾナ州レイクハバス市において開催された、「'98IJSBA世界選手権大会」に16名の選手が参加した。

プロフリースタイルクラスにおいて、過去最高の4位に入賞した。

大会には、30ヵ国から延べ878名の選手が参加した。

1999 (平成11) 年度

モーターボート

'99 日中親善モーターボート交流大会

4月30日から5月5日の6日間、中国の浙江省湖州市太湖で開催された「'99日中親善モーターボート交流大会」にパワーボート選手3名を含む12名の選手団を派遣した。

この大会では、パワーボート競技の他、中国のジェットスポーツ普及のために日本選手3名によるジェットスポーツデモンストレーションを併せて実施した。

競技には、日中両国から13名の選手が参加した。

なお、成績は、O:350で優勝、OSY400で2位の好成績を収めた。

団長 金子 光夫

監督 岡村 一臣

渉外 永来 紀洋

選手 (パワーボート) 石川 忠明 石川 忠之 加藤 英昭

(ジェットスポーツ) 中田 正樹 荻野 広行 山中 朋和

整備 (パワーボート) 毛利 裕司 佐藤 信雄 笠原 武雄

水上スキー

国内における国際大会

8月26日から29日の3日間、2001年に「ワールドゲームズ2001」の大会会場となる秋田県大潟村水上スキー場において、日本水上スキー連盟が開催した「第28回ジャパンオープンウォータースキートーナメント」及び併催した「第3回日韓対抗親善試合」に、韓国6名、オーストラリア2名及びニュージーランド1名、計9名の海外招聘選手を含む67名の選手が参加した。



ジェットスポーツ

'99IJSBA世界選手権大会

10月10日から17日の8日間、アメリカのアリゾナ州レイクハバス市において開催された「'99IJSBA世界選手権大会」に29名(オープン参加4名を含む)の選手が参加した。

成績は、17名が決勝に進出し、クロズドコース競技のプロアマウイメンクラスで国内初の第3位及び第位、第7位に、プロランナバウトクラスで第5位に、フリースタイル競技のプロクラスで第4位、第6位に、アマクラスで第2位に入賞した。

大会には、37カ国から約1,700名の選手が参加した。



2000(平成12)年度

水上スキー

国内における国際大会

第29回ジャパンオープンウォータースキートーナメント

7月7日から9日の3日間、秋田県大潟村水上スキー場において、「ワールドゲームズ2001」のプレ大会として、日本水上スキー連盟と共催で「第29回ジャパンオープンウォータースキートーナメント」を開催した。この競技会には、韓国4名、オーストラリア2名及びニュージーランド2名、計8名の海外招聘選手を含む31名の選手が参加した。

ジェットスポーツ

2000 IJSBA世界選手権大会

10月8日から15日の8日間、アメリカのアリゾナ州レイクハバス市において開催された「2000 IJSBA世界選手権大会」に21名の選手が参加した。12名が決勝に進出し、またアマチュアフリースタイルクラスにおいては、史上初の優勝を果たした。

大会には、37カ国から約1,170名の選手が参加した。



2001(平成13)年度

水上スキー

国内における国際大会 秋田ワールドゲームズ2001

8月17日から28日の12日間、秋田県大潟村水上スキー場において、「秋田ワールドゲームズ2001」大会が、国際ワールドゲームズ協会(運営主体:(財)秋田ワールドゲームズ2001組織委員主催)で開催された。



会)

大会には、25カ国から85名の選手が参加した。日本代表チームは水上スキー部門に5名、ウェイクボード部門に6名、ベアフッド部門に1名の計12名の選手が参加した。

ウェイクボード部門においては、日本の女子選手が金、銅メダルを獲得。



ジェットスポーツ

IJSBA世界選手権大会

10月7日から14日の8日間、アメリカのアリゾナ州レイクハバス市において開催された「IJSBA世界選手権大会」に11名の選手が参加した。

フリースタイルクラスにおいては、全ての選手が上位入賞を果たした。

大会には、37カ国から約1,700名の選手が参加した。



2002 (平成 14) 年度

水上スキー

第1回世界学生水上スキー選手権大会

8月21日から25日まで、天津市・Dongli湖(中国)において開催されたI.W.S.F.・FISU公認の「第1回世界学生水上スキー選手権大会」に、選手6名を含む日本選手団11名が参加した。

大会には18カ国から選手39名が参加した。

男子ジャンプ競技で慶応義塾大学の岩瀬 仁選手が46,3mの日本記録を樹立した。

I.W.S.F.2002 アジア・オーストラリア地区水上スキー & ウェイクボード選手権大会

9月13日から16日まで、滋賀県草津市琵琶湖において開催されたI.W.S.F.アジア・オーストラリア地区水上スキー&ウェイクボード選手権大会に、水上スキー6名、ウェイクボード6名の日本選手団が参加した。

大会にはカ国から水上スキー44名、ウェイクボード20名が参加した。

水上スキーの優勝国はオーストラリアで、日本は3位であった。

ジェットスポーツ

IJSBA 世界選手権大会

10月8日から16日の9日間、アメリカのアリゾナ州レイクハバス市において開催された「IJSBA 世界選手権大会」に22名の選手が参加した。

女子プロアマクラスにおいて、尾澤聖子選手が総合2位に入賞、プロフリースタイルで藤澤正雄選手が総合2位に、アマフリースタイルで萬山良一選手が総合2位に入賞した。

2004 (平成 16) 年度

モーターボート

韓国第11回海洋スポーツ大会

7月22日から25日の4日間、韓国モーターボート連盟からの招請を受け、マリンスポーツを通じた日韓親善を目的に慶尚南道巨済市巨済島で開催された「韓国第11回海洋スポーツ大会」へ日本選手団を派遣した。

また、併せて韓国国内におけるマリンスポーツ競技の運営体制や動向に関する調査を行った。

- 日本選手団 選手 1 名、メカニック 2 名、職員 1 名 計 4 名
- 参加内容
- ・ O S Y 4 0 0 クラス (国際親善大会 参加者 6 名)
 - ・ O S Y 4 0 0、K - 4 5 0、ジェットスポーツ
(韓国選手権) 参加者 2 7 名